

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-164	小学校	国語科	国語	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 501	新しい国語 五		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

児童は、言葉で思い、言葉で考え、言葉で表現します。

人や社会、自然と言葉でつながり、
自らの世界を広げていきます。

「言葉の力」は、児童の生きる力そのものです。

この教科書は、児童が国語を豊かに学ぶことを通じて、
未来を拓く基盤となる

確かな「言葉の力」を身に付けることを目指し、
以下の3点を柱として編集されています。



特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、
友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

特色

2

「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付ける
とともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

特色

3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感する
とともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

1. 「頑張りたい」ことを明確にして、主体的に学習に取り組む。

- 学習を見通す際に大切なのは、自分がどんなことを頑張って学習に取り組むかを明らかにすることだと考えました。児童が自分自身のめあてを持つことによって、成長への意志を持って主体的に学習に取り組むようにしました。

一年間の学習でがんばりたいこと (P9)

1年間の学習を見通したうえで、5年生の学習で楽しみなこと、頑張ってできるようになりたいことを友達と伝え合います。1年間の学習のめあてを持つよう促し、成長への願いや期待を引き出します。

また、夏休み前と冬休み前には、「これまでの学習をふり返って」(P99・199)を設けています。学習の成果を確かめるとともに、今後への課題を見だし、めあてを新たにすることを意図しています。(単元での取り組みは、本趣意書P6をご覧ください。)



2. 対話的な学びを通じて、共に伸びる。

- 「みんなで楽しく学ぶ」ことで、友達と共に成長したいという思いを引き出したいと考えました。協働して課題に取り組んだり、互いの考えを共有して深め合ったりしながら、対話的に学ぶことの価値や楽しさに気付くようにしました。

「この言葉、あなたならどう考える」(P10～11)

第2～6学年を通して、学年の最初に、友達との対話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習を位置付けました。ここで身に付ける対話の力が、年間を通して児童の対話的な学びを支えます。



「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

1. 「何ができるようになるか」を明示し、確実に身に付ける。

- 国語の力をしっかりと伸ばすためには、各単元で「何ができるようになるか」を児童自身がきちんと認知することが大切だと考えました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元には「言葉の力」を明示し、「何ができるようになるか」を明確にして学習を進め、確実に身に付けることができました。

「言葉の力」(左…単元導入/右…単元末:『弱いロボット』だからできること) P214～225の例)

単元導入では「何ができるようになるか」を、単元末では学習で身に付いた大切なことをおさえます。

言葉の力 ★多角的にとらえる

★言葉の力
 多角的にとらえる
 あるテーマについて書かれた文章を読むときは、立場のこととなる意見や、別の面から見た意見など、ほかの文章を読むことで、書かれていることを多角的にとらえることができます。書き手の挙げている理由や事例をおさえながら、そのテーマに対する自分の考えを深めていきましょう。

2. 思考を「見える化」して、学びを深める。

- 児童が多様な見方や考え方を働かせて学びを深めるようにするためには、教科書に登場する児童キャラクターがどのような見方や考え方を働かせて学習に取り組んでいるかを「見える化」する必要がありますと考えました。教室の児童が思考を深める一助となるように、思考の手立てとしてのノートやメモ、カードや図表の例、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示しました。

思考の表れとしてのつぶやきの例 (P71)

これまでに読んだ物語だと、山場は物語の後半にあることが多いね。

この物語の中で、いちばん大きく変わったことはどんなことだろう。

いそがしい
いそがしくて本を読まない人が増えている。
・習い事。
・委員会活動。
今まで本を読んでいた時間が使えなくなった。

読みたい本がない
高学年向けの本はむずかしそう。文章が長い。
おもしろそうな本が見つからなかった。

読書よりやりたいことがある。(スポーツなど)

本が好きではない
ゲームやテレビのほうが楽しい。

「木村さんたちが原因について考えた付せんメモ」(下108)
高学年の図書館利用が少ない原因として考えられることを付箋に書き出し、類別して整理します。



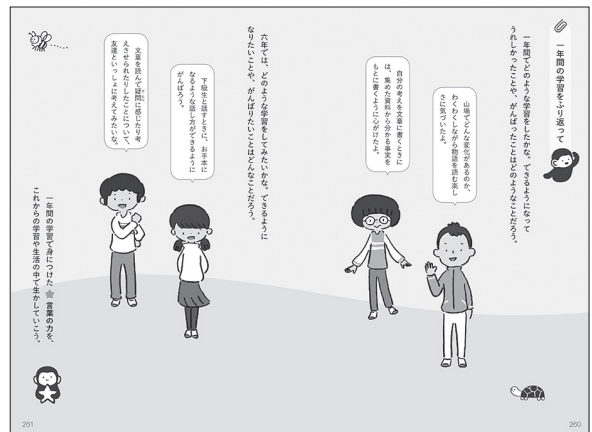
特色 3 「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

1. 自分の成長に気づき、学び続ける意欲につなぐ。

- 学習を振り返って「できるようになったこと」を確かめ、自分の成長を実感することで、もっといろいろなことにチャレンジしたい、学び続けたいという思いを抱くことができると考えました。単元末と学年末に、学習を振り返る場面を設け、自分の成長を確かめるとともに、さらなる学習への意欲を高めるようにしました。

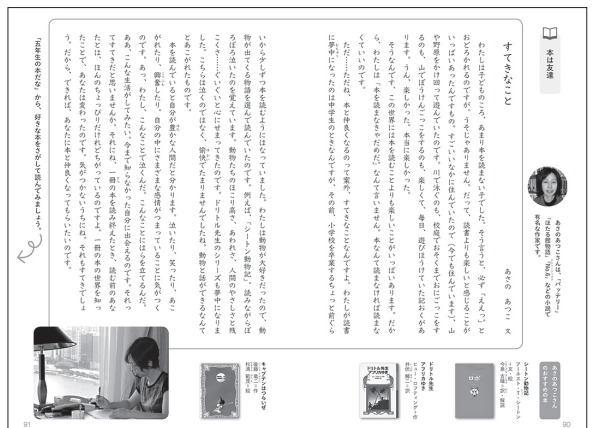
「一年間の学習をふり返って」(P260～261)
1年間の学習を振り返り、その成果を踏まえて、6年生への意欲を新たにします。(単元での取り組みは、本趣意書 P8 をご覧ください。)



2. 年間を通した読書指導で、読書に親しむ習慣と態度をはぐくむ。

- 生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくむために、年間を通して読書を促したいと考えました。学習に関連する本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書に関わる内容を設けました。(「図書館へ行こう」P28-31、「本は友達」P90～97、「友達といっしょに、本をしようかしよう」P194～197など)

「本は友達」(P90～97)
作家のあさのあつこさんの読書体験文、28冊の図書を紹介した「五年生の本だな」、本の読み広げや読書記録を促す内容で構成されています。



2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (頁)
全体	●教材や題材の選定にあたっては、学年を通して多様な内容やテーマのものを取り上げるように配慮し、幅広い知識や教養を身に付けられるようにしました。(第1号)	
動物たちが教えてくれる海の中のくらし 「弱いロボット」だからできること	●科学的探求の意義や成果について述べた文章に触れたり、ものごとについて多面的・多角的に考察したりすることを通じて、真理を求める態度を養うようにしました。(第1号)	32～43 214～225
ぼくらのもの だいじょうぶ だいじょうぶ 紙風船 注文の多い料理店 大造じいさんとがん 手塚治虫 宮沢賢治	●自他の尊重、人間愛や他者への思いやり、人間の生き方や価値観、生命の尊さに触れた文章に触れることを通じて、豊かな情操と道徳心を培うとともに、自他の敬愛を重んじ生命を尊重する態度を養うようにしました。(第1号、第3号、第4号)	巻頭 16～25 100～101 116～135 168～185 238～255 262～271
この言葉、あなたならどう考える 友達といっしょに、本をしょうかいしよう	●個々の興味や関心、ものの見方・考え方や価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	10～11 194～197
心が動いたことを三十一音で表そう	●感性豊かに表現することを通じて、豊かな創造性を培うようにしました。(第2号)	204～209
この言葉、あなたならどう考える 知りたいことを聞き出そう 問題を解決するために話し合おう 反対の立場を考えて意見文を書こう 友達といっしょに、本をしょうかいしよう	●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動や、考えの交流・共有により相互理解や合意形成を図る学習活動を通じて、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うようにしました。(第3号)	10～11 46～49 104～111 186～191 194～197
伝えたい、心に残る言葉	●人と関わる中で自分の生き方や考え方が変わった体験を表現することを通じて、自他の敬愛を重んずる態度を養うようにしました。(第3号)	158～162
図書館へ行こう	●図書館を利用する学習活動を通じて、公共の施設を大切に、決まりやマナーを守って利用する態度を養うようにしました。(第3号)	28～31
知りたいことを聞き出そう 環境問題について報告しよう 問題を解決するために話し合おう 反対の立場を考えて意見文を書こう 「弱いロボット」だからできること 資料を見て考えたことを話そう	●生活におけるさまざまな課題について主体的に考えたり他者と協働して解決に取り組んだりする学習活動、社会の現状や在り方について考察したり考えを述べたりする学習活動を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。(第3号)	46～49 50～55 104～111 186～191 214～225 226～231
動物たちが教えてくれる海の中のくらし 環境問題について報告しよう 季節の足音 大造じいさんとがん	●自然への親しみや感動、畏敬を表現したり、自然の不思議や生命の営み、自然と人間との関係について述べたりした文章の読解や、環境問題について考える学習活動を通じて、生命を尊び、自然を大切にすることを養うようにしました。(第4号)	32～43 50～55 98～198 168～185
古文に親しむ 和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる 古文のえがく四季 方言と共通語 手塚治虫	●言語に関わる文化をはじめとした我が国や郷土のさまざまな伝統や文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	136～141 142～155 200～203 236 238～255
環境問題について報告しよう 資料を見て考えたことを話そう 日本語と外国語	●他国の文化や、国際社会における諸問題に関わる教材・題材を取り上げ、他国の文化への理解を深め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	50～55 226～231 232～235

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすく分かりやすい紙面の配慮と工夫

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- シンプルなデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同一の内容の拡大教科書を発行します。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい配慮をしています。
- 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット（点）を示しています。

③ 人権上の配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしました。
- 特にイラストの表現では、身体的特徴の過度な強調は避けるよう配慮しました。

④ 造本上の工夫

- 本文の文字には、本教科書のために特別に開発した教科書体を使用しています。おおらかでしっかりとしたデザインで読みやすいだけでなく、硬筆書写の手本をモデルとしており、文字指導に適した書体です。
- 児童が長期にわたって使用することをふまえて、特に堅牢な針金綴じで製本しています。
- 通学時の持ち運び等の負担を軽減するため、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用しています。
- 環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか（「言葉の力」）、どのように学ぶか（「学習の見通し」）を明示するとともに、学習過程における児童の活動や思考の流れを具体的に記述しています。指導計画・評価計画が立てやすく、無理なく指導できます。
- 教師用指導書を通じ、学習指導をさまざまな面から支援します。
- インターネットを通じ、児童の学習や先生がたの学習指導に役立つデジタルコンテンツを配信します。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、教材や題材は、他教科等との合科的・関連的指導や家庭・地域との連携が図れるものを積極的に取り上げました。（「知りたいことを聞き出そう」P46～49、「環境問題について報告しよう」P50～55、「問題を解決するために話し合おう」P104～111、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「日本語と外国語」P232～235など）
- 高学年は年間1冊とし、年間を見通しつつ柔軟に単元が組み替えられるようにしました。
- 既習事項の定着、学習に関連した読書活動、季節に応じた詩や短歌・俳句の音読や暗唱、生活や学習に関わる語彙の習得など、日常的・継続的に取り組むことによってしっかりと学習習慣を育てるとともに、各校の実態に応じ、短時間学習を含めた柔軟な時間割編成や家庭学習に対応できる教材を提示しました。（「漢字の練習」P15・77ほか、「言葉の練習」P163、「こんな本もいっしょに」P25・255ほか、「五年生の本だな」P92～95・197、「季節の足音」P98・198、「ことばあつめ」P76・212など）

③ 道徳教育との関連

- 児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通じて、相互理解を深める態度を養うようにしました。
- 自他の尊重や生命に対する畏敬、我が国や他国の伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通じて、豊かな情操や道徳性を養うようにしました。（本趣意書P4「対照表」参照）

④ 各種の教育課題への対応

- 教材や題材の選定や学習活動の設定にあたって、以下の教育課題に対応できるよう配慮しました。
【伝統や文化に関する教育】…我が国や郷土の言語文化について学んだり、伝統や文化に触れたりして、その継承や発展について考える。（「古文に親しむ」P136～141、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「古文のえがく四季」P200～203、「方言と共通語」P236、「手塚治虫」P238～255など）
【主権者に関する教育】…学校生活や社会生活における課題を見だし、その解決に主体的に参画する。（「知りたいことを聞き出そう」P46～49、「環境問題について報告しよう」P50～55、「反対の立場を考えて意見文を書こう」P186～191、「資料を見て考えたことを話そう」P226～231など）／主体的・合理的な考えの形成や判断、他者との考えの共有や合意形成に取り組む。（「この言葉、あなたならどう考える」P10～11、「問題を解決するために話し合おう」P104～111、「反対の立場を考えて意見文を書こう」P186～191など）
【法に関する教育】…図書館や図書館の本など、公共物を決まりを守って利用する。（「図書館へ行こう」P28～31など）／学校生活における課題について、役割を決めて話し合い、合意形成を図る。（「問題を解決するために話し合おう」P104～111など）
【情報化に関する教育】…発信者の目的や意図による表現の仕方について考え、情報を見る目を養う。（「新聞記事を読み比べよう」P78～88）／目的に応じた手段や方法を用いて情報を収集し、適切かつ効果的に活用して課題の解決を図る。（「事実と考えを区別しよう」P12～13、「環境問題について報告しよう」P50～55、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「資料を見て考えたことを話そう」P226～231など）
【環境に関する教育】…自然や環境に関わる教材や題材、学習活動を通じて、自然に対する豊かな感性をはぐくんだり、自然や環境保全の大切さへの理解を深めたりする。（「環境問題について報告しよう」P50～55、「季節の足音」P98・198など）
【生命の尊重に関する教育】…生命の営みや生命あるものの存在の価値、人が生きることの意義に触れ、生命の尊さや生きることの価値について考える。（「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」P32～43、「大造じいさんとがん」P168～185、「手塚治虫」P238～255、「宮沢賢治」P262～271など）
【キャリアに関する教育】…伝統産業を支える職人の姿や科学技術の発展に寄与する研究者の考えに触れたり、伝記を通じ自らの仕事に生涯をかけた人の生き方について考えたりする。（「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「『弱いロボット』だからできること」P214～225、「手塚治虫」P238～255、「宮沢賢治」P262～271など）
【食に関する教育・消費者に関する教育】…食に関わる問題について、消費者の立場から主体的に考える。（「資料を見て考えたことを話そう」P226～231）
【国際理解・平和に関する教育】…国際社会が直面する諸問題について、自分の生活との関係を見だし、主体的な参画を考える。（「環境問題について報告しよう」P50～55、「資料を見て考えたことを話そう」P226～231など）／我が国の文化と他国の文化との関わりについて知り、他国の文化への理解や敬愛を深める。（「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「和語、漢語、外来語」P164～165、「手塚治虫」P238～255など）
【オリンピック・パラリンピックに関する教育】…オリンピック大会や障害者スポーツに関する新聞記事を通じて、オリンピック・パラリンピックへの理解や関心を深める。（「新聞記事を読み比べよう」P78～88）

3. その他の取り組み

① 教育の情報化への対応

- 学習のねらいや学習活動の目的に応じて、さまざまな情報収集の手立ての一つとして、インターネットを活用した学習活動を設定しました。（「環境問題について報告しよう」P50～55、「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」P142～155、「『弱いロボット』だからできること」P214～225、「資料を見て考えたことを話そう」P226～231など）
- 教科書に㊦マークを示した箇所を中心に、インターネットを通じて学習に役立つデジタルコンテンツを配信し活用できるようにしました。（「漢字の練習」P15・77ほか、「知りたいことを聞き出そう」P48、「古文に親しむ」P136～141、「言葉の練習」P163、「古文のえがく四季」P200～203、「新しく習った漢字」P280など）
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

② 新聞の活用への取り組み

- 日常的な新聞の活用を促すとともに、新聞記事を読み比べる学習を提示しました。（「図書館へ行こう」P28～31、「新聞記事を読み比べよう」78～88）

③ 学力調査、大学入試改革への対応

- 単元や教材の設定にあたっては、全国学力・学習状況調査をはじめとする各種の学力調査の出題傾向や結果の分析、大学入試改革の動向等を踏まえ、現代の児童に求められる学力がしっかりと身に付くよう配慮しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

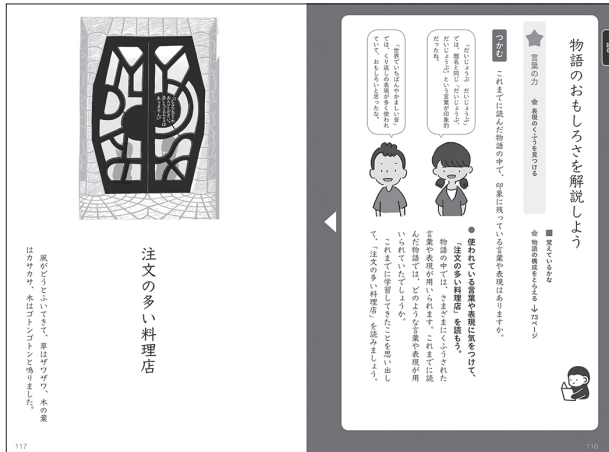
受理番号	学校	教科	種目	学年
30-164	小学校	国語科	国語	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 501	新しい国語 五		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色 1 「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

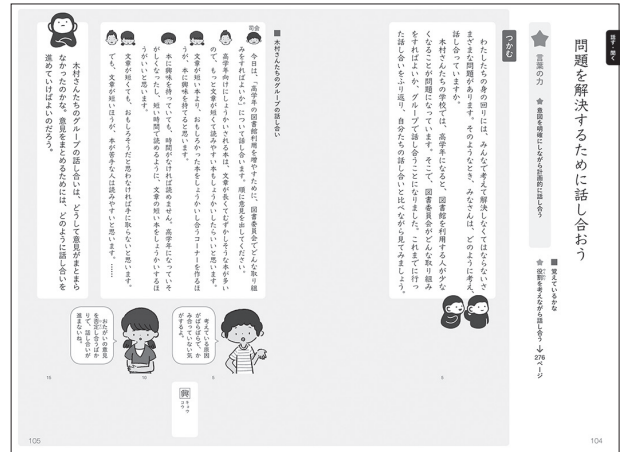
1. 「取り組みたい」「できるようになりたい」を引き出す単元の導入。

- 課題解決的に学習を展開できるよう、単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成しました。児童の主体的な学習を促すため、「つかむ」段階の充実を図り、既習事項や日常の言語生活とつなげながら、単元の学習で「取り組みたい」「できるようになりたい」ことを見いだせるようにしました。



「注文の多い料理店」導入 (P116～117)

- 右ページ…既習の物語で印象に残っている表現を想起し、表現の工夫に着目して読むよう促します。
- 左ページ…「注文の多い料理店」本文への関心を高めるよういざないます。



「問題を解決するために話し合おう」導入 (P104～105)

- 児童キャラクターの話し合い例を参照しながら、自分たちの話し合いをよりよいものにするためにはどうすればよいかを考えます。日常の言語生活を豊かにするために「できるようになりたい」ことを引き出します。

2. 協働と共有で、共に伸びる。

- 友達と協働して学習の課題に取り組むこと、考えを共有して互いに認め合い高め合うこと。この二つを大切にすることで、対話的な学びを実現し、仲間と共に伸びる喜びを味わえるようにしました。



共に学び、成長するキャラクター

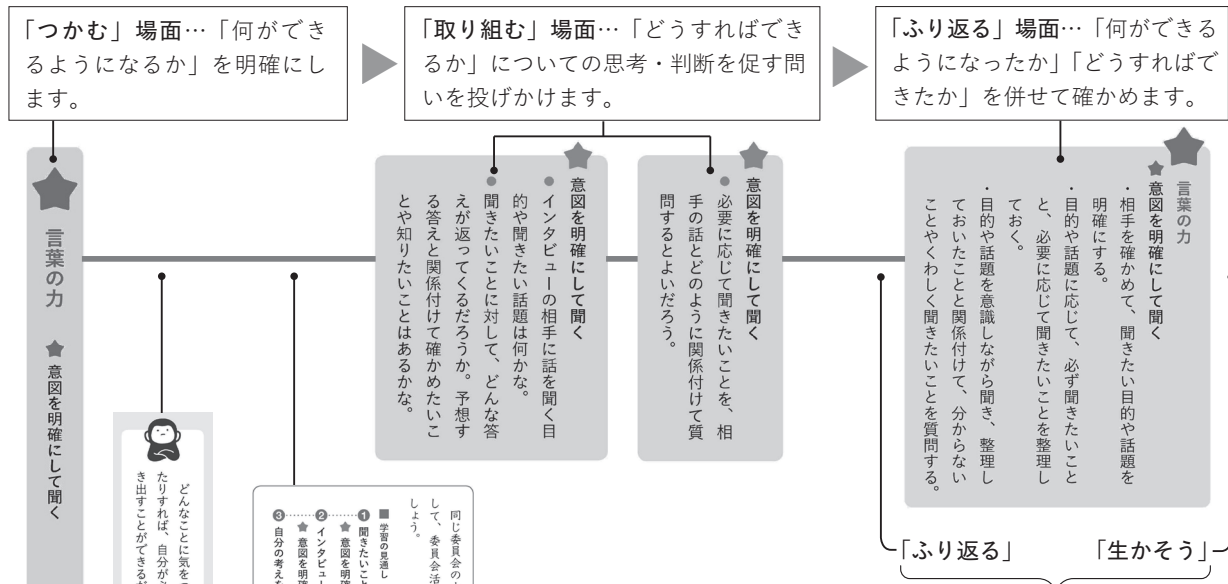
4人のキャラクターが、教室の児童とともに学習に取り組み、成長していきます。



「言葉の力」がしっかり身に付く

1. 「言葉の力」を常に意識し、しっかりと身に付ける。

- 常に「何ができるようになるか」「どうすればできるか」を意識して学習を進められるよう、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各単元に、身に付けたい「言葉の力」を設定し、単元を通して明示しました。



本趣意書P8・特色3-1をご覧ください。

単元の流れと「言葉の力」の働き

(「知りたいことを聞き出そう」の例/P46～49)

単元全体を通して「言葉の力」を意識しながら学習を進め、確実に身に付けられるようにしました。

2. 「語彙」と「情報の扱い方」を重視し、「言葉の力」を支える。

- 「言葉の力」を支え、深い学びの基盤となる知識・技能として、「語彙」や「情報の扱い方」を重視し、着実に身に付けられるようにしました。

「ことばあつめ」 (P76・212)

「つなぐ言葉」(P76)、「比べる時の表現」(P212)など、思考に関わる語彙を集め、豊かに広げます。

「おさえる」

写真と文章の関係

文章に合わせてけいさいされている写真には、文章の内容を表すだけでなく、書き手のメッセージを強める役割があります。書き手の意図に注意して、写真と文章を関係付けて読むことが大切です。

学習の基盤となる知識や技能を確実に「おさえる」ため、随所に提示しています。

左…複数の情報(写真と文章)の関係付けに関する「おさえる」(P87) / 下…メモと図表を用いて情報を関係付け、整理した例(P108)

情報と情報とを関係付けて捉えたり、図などを用いて整理したりする力は、情報活用に関わる重要な力として、「全国学力・学習状況調査」で繰り返し問われています。

いそがしい

いそがしくて本を読まない人が増えている。

- ・習い事。
- ・委員会活動。

今まで本を読んでいた時間が使えなくなった。

読みたい本がない

高学年向けの本はむずかしそう。文章が長い。

おもしろそうな本が見つからなくなった。

本が好きではない

ゲームやテレビのほうが楽しい。

特色
3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

1. 学習を振り返り、国語を学ぶ意義に気付く。

- 単元末の「ふり返る」では、自らの学習の過程を価値付ける視点を投げかけるとともに、「言葉の力」を他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設けました。自分が頑張っただけで学習に取り組んだことへの肯定感や学んだことの有用感を高め、さらに頑張ろう、もっと学びたいという意欲を喚起します。

「ふり返る」(「資料を見て考えたことを話そう」の例/P231)

学習のプロセスに目を向け、どんなことに気がついたり頑張ったりして取り組んだかを振り返ります。「言葉の力」と対照することで、今後の課題を見いだすことにもつながります。

ふり返る

★ 言葉の力

★ 考えが明確に伝わるように話す

- ・自分の考えの中で、最も伝えたいことを決める。
- ・伝えたい考えを、もともたなかった資料や体験などと結び付けながら話す。
- ・資料などから分かる事実と自分の意見や感想とを区別して話す。

★ 資料と関係付けて話す

- ・どの資料について話しているのかが、聞き手にはっきりと分かるようにする。
- ・必要に応じて、資料の中の言葉や具体的な数値を引用して話す。

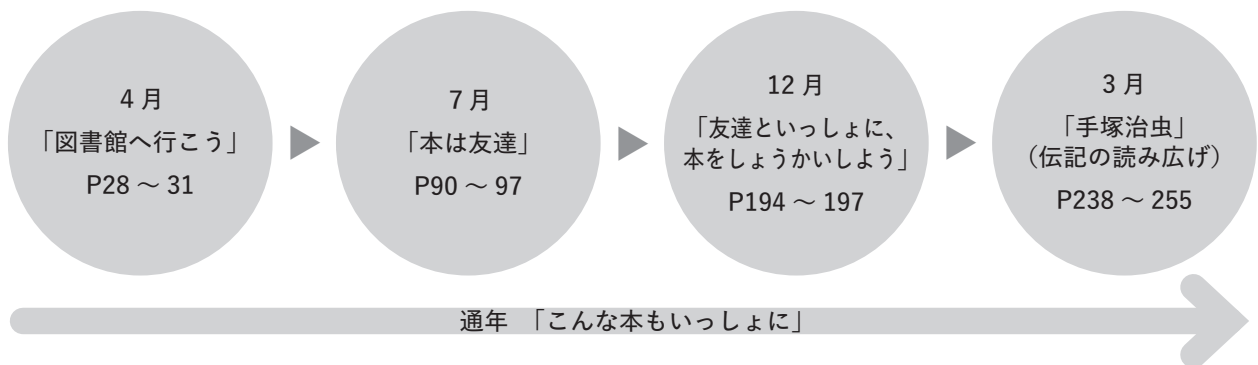
■ 生かそう

- ・社会科学や理科で調べたことを発表する。
- ・算数で考えたことを黒板を使って説明する。

自分の考えを明確に伝えるために、どんなことに気をつけて、話の構成を考えたり、資料を使ったりしましたか。

2. 年間を通した読書指導で、本に親しむ習慣・態度をはぐくむ。

- 年間を通して読書指導に力を入れています。さまざまな本と出会い、自らの世界を広げていく楽しさや喜びを味わうことによって、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。



検討の観点と内容の特色

観 点	特色及び該当箇所例 (頁)
1. 教育基本法の遵守	
	● 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。
2. 学習指導要領の遵守	
	● 小学校学習指導要領(国語科)に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しています。
3. 内容・組織	
① 内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通して段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ● 各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示し、取り扱う内容が一目で分かるようにするとともに、巻頭に「五年で学習する『言葉の力』」(P7～8)を設け、年間の学習を一覧して見通せるようにしました。 ● 単元の導入に設けた「覚えているかな」で既習事項の想起を促し、学習に生かせるようにしました。また、4年生で学習した「言葉の力」とのつながりを確かめたり意識したりできるように、付録に「四年で学習した『言葉の力』」(P276～279)を設け、一覧できるようにしました。
② 程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。 ● 学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。

③ 組織・配列	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月を学習の基盤作りの期間とし、学習の基礎となる事項についての単元・小単元を位置付け、学んだことを以後の学習で活用できるようにしました。(P10～31) ● 学年の最初に年間の学習を見通す場面(P9),夏休み前と冬休み前に「これまでの学習をふり返って」(P99・199),学年末に「一年間の学習をふり返って」(P260～261)を設け、年間を通して見直しを持つとともに、随時各自の学習を振り返って価値付け、今後への課題を見いだせるようにしました。 ● 領域ごとの学習のつながりに配慮するとともに、領域相互の関連にも配慮しました。
④ 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の導入部を「つかむ」、終末部を「ふり返る」として、課題解決的な単元の構成にするとともに、巻頭の「国語の学習の進め方」(P6)で、課題解決的な学習の進め方を確かめられるようにしました。 ● 単元の導入部に、その単元の「言葉の力」を提示し、「何ができるようになるか」を明確にするとともに、課題に即した「学習の見通し」を提示し、課題解決への見直しを持って学習に取り組めるようにしました。 ● 学習の展開に応じて「言葉の力」に関わる大切な視点や観点を示唆する問いを投げかけ、言葉による見方・考え方をしっかりと働かせながら学習に取り組めるようにしました。 ● 友達との協働的な学びや学び合い、考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びを展開できるようにしました。(P24, 107, 160, 207など) ● 単元末の「ふり返る」には、単元で学んだ大切なことを付記した「言葉の力」を提示し、学習の価値付けとともに、今後への課題を見いだせるようにしました。また、併せて「言葉の力」の活用を促す「生かそう」を提示し、学習の有用感を高めるようにしました。
⑤ 資質・能力の育成への配慮	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着・習熟できるようにしました。 ● 学習の基盤となる知識や技能を「おさえる」として随所に提示しました。 ● 第4学年で学習した漢字や、各種の学力調査の分析で課題とされている事項の習得を確かにするため、「漢字の練習 四年で習った漢字」(P15・77ほか)や「言葉の練習」(P163)を設けました。これらのページについては、繰り返し練習できるデジタルコンテンツを用意し、学校や家庭のパソコン、スマートフォン等で、インターネットを通じて使用できるようにしました。 ● 語彙を豊かにし、実生活で使えるようにする学習を随所に設定しました。(P76・212「ことばあつめ」、P164～165「和語、漢語、外来語」、P166「話し言葉と書き言葉」、P236「方言と共通語」、P274～275「言葉の広場」など) ● 学習上大切な用語を、巻末付録「学習で使う言葉」(P272～273)で一覧できるようにしました。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身に付くようにしました。 ● 思考を言語化して考えを広げたり整理したりするツールとしてのノートやメモ、カードや図表を重視し、随所に例示しました(P41「文章の構成を整理した例」、P47「山下さんのインタビューメモ」、P110「木村さんたちが解決方法について考えた付せんメモ」、P206「連想メモ」など)。特にノートについては、学習の基盤となるものとして重視しました。(P26～27「国語のノートの作り方」) ● 話例や文例、児童キャラクターの吹き出し等に、学習に関わるさまざまな視点や観点を示唆し、児童が言葉による多様な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現できるようにしました。
⑥ 指導計画作成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的な指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。(P12～13「事実と考えを区別しよう」、P46～49「知りたいことを聞き出そう」、P50～55「環境問題について報告しよう」、P104～111「問題を解決するために話し合おう」、P142～155「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」、P226～231「資料を見て考えたことを話そう」、P232～235「日本語と外国語」など) ● 2学期制、3学期制のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしています。 ● 複式指導に配慮して、第5学年と第6学年でなるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています。

4. 特別支援教育や色覚特性などへの配慮 (ユニバーサルデザイン)

① 特別支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、シンプルなレイアウトや色使いを工夫しました。 ● 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を付けています。 ● 「ローマ字の表」(P303)や「日本語と外国語」(P232～235)で用いるアルファベットは、特別支援教育の専門家の助言の下、英語教科書用に新たに開発したユニバーサルデザイン書体を採用しました。自然な手書き文字に近く、文字指導に適した書体です。
② 色覚の多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

5. 表記・表現、印刷・造本に関する配慮

① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発・使用しています。
③ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期にわたる使用、通学時の持ち運びに配慮し、用紙は十分な強度を持ち、かつ軽量なものを使用しています。表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。 ● 印刷は鮮明で正確です。 ● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書の構成・内容 (単元名)	学習指導要領の内容				配当時数					配当学期			
		知識及び 技能	思考力・表現力・判断力等			知・技	話・聞	書く	読む	計				
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと									
10	この言葉、あなたならどう考える	(1)ア	(1)ア			2			2	一 学 期	前 期			
12	事実と考えを区別しよう	(2)イ		(1)ウ(2)ア			2		2					
16	○人物の思いを音読で伝えよう だいじょうぶ だいじょうぶ	(1)クケ			(1)イエ(2)イ			4	4					
28	図書館へ行こう	(3)オ				2			2					
32	○筆者の伝えたいことをまとめよう 動物たちが教えてくれる海の中のくらし	(1)カ		(1)イ	(1)アオ(2)ア			2	5			7		
44	漢字の成り立ち	(3)ウ				2			2					
46	知りたいことを聞き出そう	(2)イ	(1)エ(2)イ			4			4					
50	環境問題について報告しよう	(1)オ(2)イ		(1)アエ(2)ア			7		7					
56	○山場で起こる変化について考えよう 世界でいちばんやかましい音	(1)カ		(1)ウ	(1)エオ(2)イ			2	5			7		
74	文の組み立てをとらえよう	(1)オカ				2			2					
78	○書き手の意図を考えよう 新聞記事を読み比べよう	(2)イ		(1)ア	(1)アウ(2)ア			2	4	6				
90	本は友達	(3)オ				2			2	二 学 期	後 期			
100	○詩を読もう 紙風船 / 水のこころ	(1)クケ			(1)エオ(2)イ				2			2		
104	問題を解決するために話し合おう	(2)アイ	(1)オ(2)ウ			5			5					
114	敬語の使い方	(1)キ				2			2					
116	○物語のおもしろさを解説しよう 注文の多い料理店	(1)ク		(1)ウ	(1)エオ(2)イ			3	5			8		
136	古文に親しむ	(3)ア		(1)ウ	(1)カ			1	2			3		
142	○和の文化について調べよう 和の文化を受けつぐー和菓子やさぐる	(2)イ		(1)イエ	(1)ウカ(2)ウ			5	8			13		
158	伝えたい、心に残る言葉	(1)イオ	(1)アウ(2)ア			5			5					
164	和語、漢語、外来語	(1)イ(3)ウ				2			2					
168	○朗読で表現しよう 大造じいさんとがん	(1)ケ		(1)ウ	(1)イエオ (2)イ			2	6			8		
186	反対の立場を考えて意見文を書こう	(1)オカ		(1)イオ(2)ア				6		6				
194	友達といっしょに、本をしょうかいし よう	(3)オ			(1)カ				2	2				
200	古文のえがく四季	(3)イ		(1)ア(2)ウ	(1)オ			2	1	3	三 学 期			
204	心が動いたことを三十一音で表そう	(1)オ(2)イ		(1)アオカ(2)イ				4		4				
210	熟語を使おう	(1)エオ				2			2					
214	○テクノロジーの進歩について考えよう 「弱いロボット」だからできること	(1)カ		(1)ウ	(1)ウオ(2)ア			2	5	7				
226	資料を見て考えたことを話そう	(2)イ	(1)イウ(2)ア			5			5					
232	日本語と外国語	(1)カ(3)ウ		(1)ア				4		4				
238	○伝記を読んで感想文を書こう 手塚治虫	(3)オ		(1)ウ	(1)オカ(2)イ			2	5	7				
256	「わたしの文章見本帳」を作ろう	(1)ウ		(1)ウカ				4		4				
計						14	21	50	54	139				
										書写および予備			36	
										総計	175			